

[単年度要望課題]

島しょ特産地鶏（仮称：島しゃも）の開発

井上和典・平野直彦\*・坂田雅史\*<sup>2</sup>・小嶋禎夫\*<sup>3</sup>

（島しょ農水センター三宅，\*食料安全室，\*<sup>2</sup>青梅畜産センター，\*<sup>3</sup>農総研商品開発科）

---

【要 約】島しゃもは、‘東京しゃも’と同水準の増体量を示し、飼料要求率も優れていた。今後はより高い経済性を実現するため、飼養方法などを検討する必要がある。

---

【目 的】

‘東京しゃも’を作出する際に発生する軍鶏F<sub>1</sub>雄雛鶏を有効活用するため、その品種特性を明らかにし、島しょの特産地鶏化を検討する。

【方 法】

材料は、‘軍鶏’×‘ロードアイランドレッド’交雑鶏の雄 22 羽（孵化日：2005 年 6 月 21 日）を用い、3 m<sup>2</sup>の鶏舎に平飼いで飼育した。飼料は、無薬飼料である「ブロイラー仕上げ期用配合飼料」を不断給餌とした。飼育は孵化から 43 日齢までを青梅畜産センターで行い、海上輸送の上、44 日齢から三宅事業所で行なった。試験期間は、海上輸送のストレスを考慮し、48 日齢から 118 日齢の 70 日間とした。試験期間中は残飼を毎日、体重を毎週測定した。また、試験終了とともに処理・脱羽し、部位ごとの重量を測定した。‘東京しゃも’の数値は、東京都畜産試験場研究報告第 24 号による、雄の成績を抜粋した。

【成果の概要】

- 1) 平均体重の推移を‘東京しゃも’の成績と比較したところ、両者にほとんど差はなかった（図 1）。飼料給与に関しては 7～8 週齢時に停滞したものの、それ以降は順調に増加した。停滞原因は暑熱によるものと思われる（図 2）。
- 2) 試験期間中の一羽当たりの総飼料摂取量は 5,985g で、飼料価格は 20kg あたり 1,800 円であったので、飼料費は 1 羽あたり 539 円となった。飼料要求率は 10 週目以降、‘東京しゃも’の成績を上回り、最高で 3.02 を記録した。処理時には 3.49 であった（表 1）。
- 3) 1 m<sup>2</sup>あたりの飼養羽数が 7.3 羽という今回の飼養条件では、育成率は 100%であり、性質は温順でつきなども皆無であり、飼育性は良好であった。
- 4) 処理・脱羽後の部位重量比率は、‘東京しゃも’に比して胸肉の比率がわずかに高いものの、ほとんど差はなかった（表 2）。
- 5) 島内の関係者をパネラーにした食味評価の結果、強い旨味とほどよい硬さが評価され、概ね良好な結果であった。
- 6) まとめ：島しゃもは、増体が‘東京しゃも’と同水準で飼料要求率が優れていたことから、産肉性は‘東京しゃも’より優れていた。しかし、地産地消が前提の島しょでは、より高い経済性が望まれる。今後、低価格・高エネルギー質飼料の給与といった飼養方法の検討や、食味を維持しながら、より増体に優れた品種と交雑を行うなどの改良が必要であると考えられる。

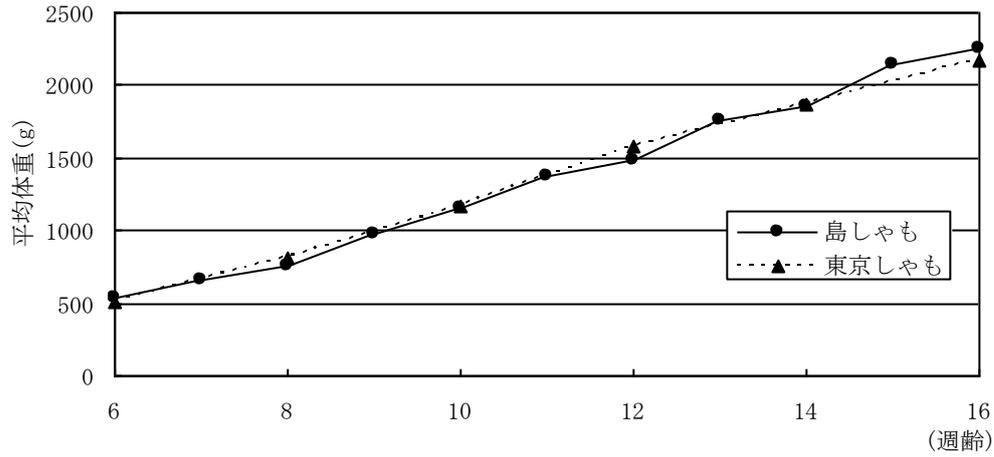


図1 平均体重の推移

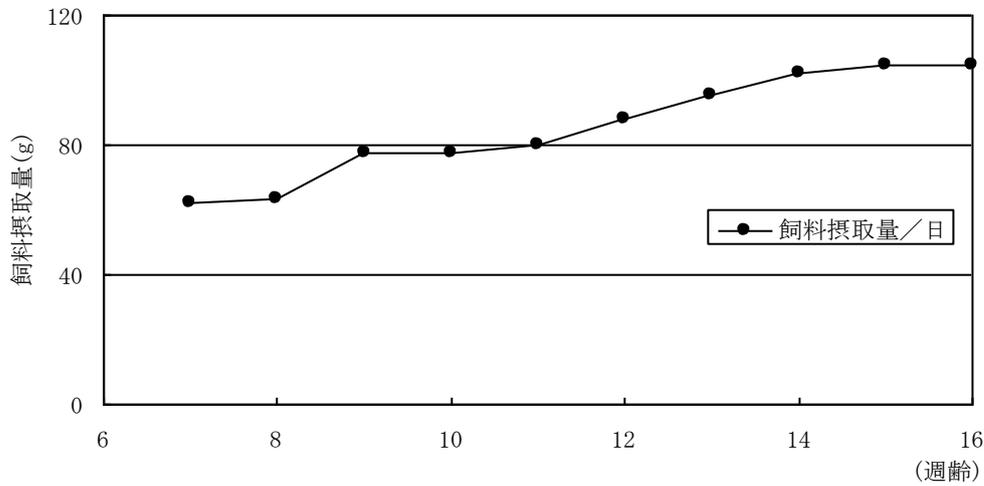


図2 一日一羽あたり飼料摂取量の推移

表1 飼料要求率の推移

品 種	週 齢									
	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
島しやも	3.54	3.82	3.24	3.19	3.02	3.28	3.10	3.43	3.27	3.49
東京しやも	-	3.62	-	3.70	-	3.93	-	6.21	-	7.46

注) 東京しやもは0週からの島しやもは6週からの区間値

表2 処理・脱羽後の部位重量比率

品 種	部 位							
	骨皮 付胸	骨皮 付腿	ささ み	肝	砂肝	手羽	ガラ	その 他
島しやも	18.7%	27.0%	3.8%	2.5%	2.7%	10.9%	17.2%	17.1%
東京しやも	17.0%	27.9%	3.7%	2.6%	2.0%	-	19.6%	-